

パモウナ製品 合板(背板)のよくある問い合わせについて

現在、良品レベルの合板を使用した商品であっても「不良品では？」とお問い合わせを頂くことが増えておりますので、弊社製品における背板裏面などの商品正面から見えない位置に使用する 合板の限度見本のレベルを示します。ご理解を賜りますようお願い致します。

◎ 弊社が背板を合板にこだわる理由

他社の製品では、家具の重要な構造部である背板に合板ではなくMDFを採用している製品があります。MDFとは、木材の繊維質までも裁断し、接着剤と高温・高圧を掛けて板状に成型したものです。したがって表面は均一で虫食い痕は無くなりますが、繊維質が裁断されているため、たわみ強度が弱く、湿気を含んで反り易い材料です。このMDFを重要な構造部分である背板に使用することは、繊維質が無いたわみやすい素材であることから、家具全体で強度不足による変形を起こす可能性が高くなります。また、日本の気候は湿度が高く、特にキッチンでは湯気や水蒸気などの影響で湿度が上昇することが想定され、湿度に弱いMDFを変形させる原因は十分にあると言えます。家具の背板は、人で例えると背骨のようなものです。背骨に問題が生じると体のさまざまな部分にも障害が発生します。そのような理由から、弊社では、お客様に永く快適に商品をご使用頂くために、背板部分は合板でなければならないとこだわりを持って製造しております。

◎ 現在の合板の状況について

合板は東南アジアを中心とした地域で伐採される木材、すなわち天然素材が主原料となります。近年その木材の収穫量が激減しているため、品薄状態が続いており、合板自体の入手が難しくなっております。また、元々虫食い痕や黒スジ、パテ埋めなどの無い合板というものは皆無に近い状況でした。弊社では、下記の不良レベルのような合板全体にひどく虫食い痕や黒いスジなどがあるものはNG品として除いて生産しております。

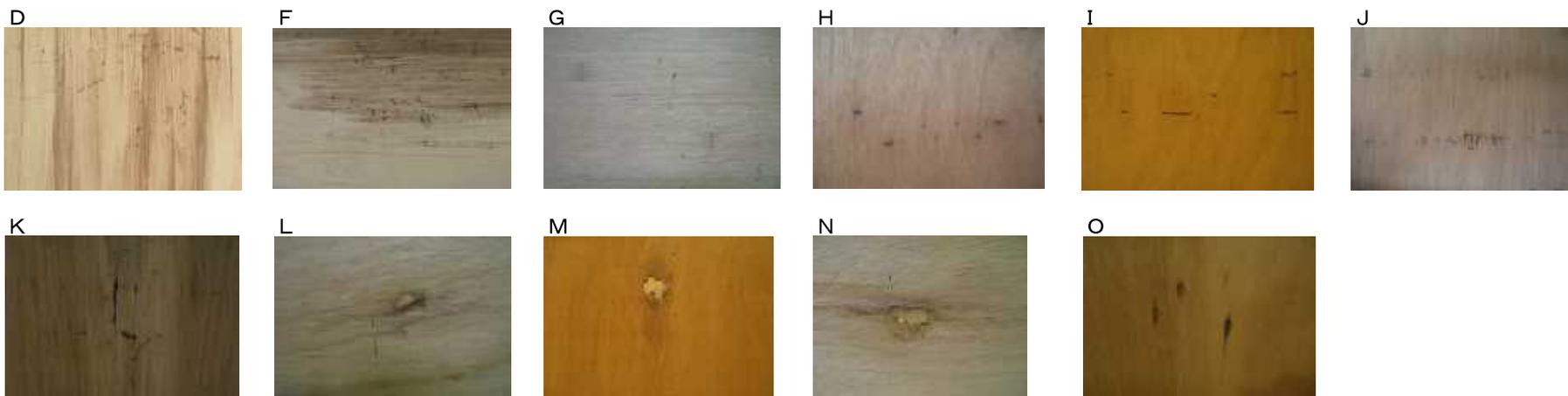
① 合板(背板)の虫食い痕について

◆ 不良レベル合板見本(NGレベル): 合板(背板)全体に大きな虫食い痕や黒いスジがあるもの



※ 万が一お客様にお届けになった商品の背板が不良レベルであった場合には無償にて交換させていただきます。
しかしながら、交換をさせて頂いても下記の良品レベルのような若干の虫食い痕、黒スジ、節痕は入ります。ご了承下さい。

◆ 良品レベル合板見本(弊社基準OKレベル): 合板(背板)に部分的に虫食い痕や黒いスジ、節痕などが見られるもの



※ 以上のような良品レベルの場合は、無償での交換は出来かねます。どうしても気になるお客様は有償の裏面化粧カスタマイズをご検討下さい。

◎ 虫食い痕の発生原因について

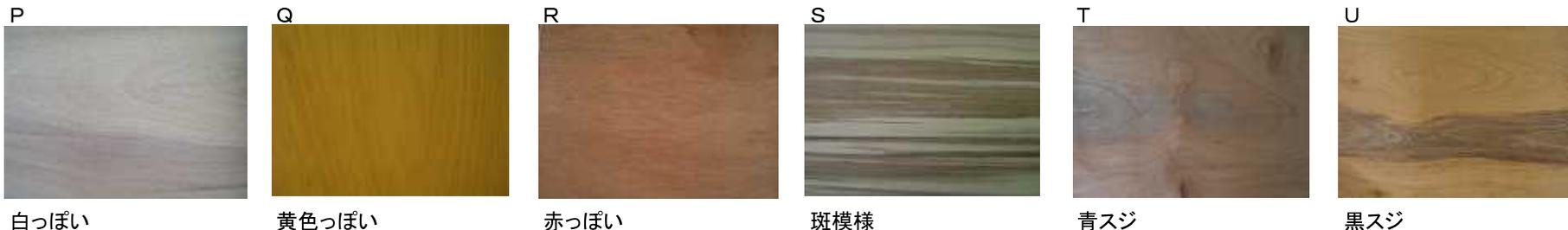
虫食いの痕は、海外で原木の時に虫が食べていた痕です。その後、合板にしていく過程で、まず原木の煮沸処理が行われます。その後、大根のカツラムキのように薄くカットして、それから熱風による乾燥処理を行います。その後、その薄い板を何層も重ねて接着剤と高熱と圧力を掛け熱硬化させて合板にしています。ですから、合板にしていく過程で虫は生きていくことも中に入っていることもできません。

② 合板の色が違うことについて

ユニット商品などでは、商品の組み合わせを行うと背板の色が色々混ざることがあります。

合板は元々の原木の取れる土地の土壌や環境によって黒っぽい、赤っぽい、黄色っぽい、白っぽい、緑掛かっているなど木目や色が様々になります。

これらを統一することはできませんので、ご了承下さい。



③ 合板の表面剥がれについて

合板の元となる原木の筋目や節部分、合板のつなぎ目などが落ちて剥がれ、表面に厚み1mm以下の表層剥がれが発生することがあります。通常、合板は化粧をする面にきれいな面を充てるため、化粧をしない面には写真のような筋目、節目落ちがある場合があります。その中で大きく欠損する場合には、その部分をパテで埋めるケースがあります。主に葉っぱ型になり、大きいものですと20センチ以上になるものもあります。これらは不良品ではございませんのでご了承下さい。

